# 科研費

# 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号: 15301

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2013~2015

課題番号: 25370479

研究課題名(和文)朝鮮語古語辞典作成のための基礎的研究

研究課題名(英文)A fundamental study for compiling a new archaic Korean words dictionary

## 研究代表者

辻 星児(TSUJI, Seiji)

岡山大学・社会文化科学研究科・特任教授

研究者番号:40108113

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文): 代表者は、日本語で解説され、さらに日韓の言語交流史の情報を含んだ朝鮮語古語辞典を編纂することを企図し、そのための基礎的研究を行った。その成果は次の通りである。1)中期朝鮮語(15-16世紀)の文献から基礎語彙と関連語(身体語、衣服語等)を選定し、基礎語彙の初出例文、日本語による解説を付して公刊した。2)近世朝鮮語の口語資料『捷解新語』の対訳日本語付の朝鮮語語彙索引を作成した。3)本研究にかかわる新たな言語資料を発掘した。

資料を発掘した。 この研究をとおして、古語辞典編纂に対する基礎固めができ、問題点を整理することができた。さらに、この成果を踏まえ、日本語韓国語の類似性について、韓国での国際学会で講演を行った。

研究成果の概要(英文): The purpose of this research was to study the foundation for compiling a new archaic Korean words dictionary that is interpreted in Japanese and contains historical information of linguistic exchange between Japan and Korea.

My major research accomplishments for the past three years supported by JSPS are as follows: 1) publication of academic studies about basic body and clothing related vocabulary selected from literature of the Middle Korean period, 15th to 16th century, along with example sentences of the first appearance and interpretation in Japanese, 2) compilation of a bilingual index of Cheophaishineo, a colloquial material in Modern Korean, 3) discovery of new linguistic materials related to the research. Through the research, I confirmed the foundation and identified problems with respect to the dictionary compilation. In addition, I gave a lecture on linguistic similarities between Japanese and Korean at an international conference in Seoul, which was based on this research.

研究分野: 東アジアの諸言語に関する歴史言語学的研究: 日本・朝鮮資料による朝鮮語史・日本語史研究;漢字音の

研究

キーワード: 中期朝鮮語 古語辞典 基礎語彙 朝鮮資料 日本資料 語彙研究 歴史言語学

#### 1.研究開始当初の背景

朝鮮語の歴史にあっては、ハングルが創制 された 1443 年以降、豊富な文献が残されて いるが、その読解には古語辞典が欠かせない。 韓国には数種の辞典があるが、日本語による 古語辞典は皆無である。韓国への関心が高ま るなか、日本語で解説された古語辞典を要望 する声は強い。研究代表者は、「朝鮮・日本 資料」と称される日朝の言語交流資料を中心 に、朝鮮語史、日本語史研究に携わっており、 以前より、日本語による朝鮮語古語辞典の作 成を考えてきた。しかも、既成の古語辞典の 翻訳ではなく、研究代表者が行ってきた日朝 の言語交流史の成果をも取り込んだ辞典で ある。しかし、このような辞典は短期間での 編纂は不可能であるので、三ヵ年の研究課題 は、編纂のための基礎的な研究、とくに中期 朝鮮語(15・16 世紀)の基礎語彙の記述、 近世語文献の対訳付きデータベース作成な どを中心に企図した。

# 2.研究の目的

## (1)中期語基礎語彙の記述

辞書作成において最も基本的なことは、基礎語彙の記述である。朝鮮語の古語に関しては、まず、中期語(15・16世紀)を中心にすえ、次の作業を行うことを本研究の目的とした:

中期語における分野別基礎語彙の選定 各基礎語の語形(アクセントを含む)と意味の確定、および(初出)用例の摘出と 訳注

各語の関連語の網羅的収集

言語交流資料にみられる「仮名書き朝鮮 語」の選定

# (2)近世語語彙の選定と対訳確定

近世朝鮮語には多くの文献資料があるが、今回は、対訳口語資料『捷解新語』(原刊本:1676年刊;全10巻)から全実質語を抽出し、中期語との関連を考慮しつつ、それぞれに対訳日本語を付してデータベースを構築する作業を行うことを目的とした。

(3)日朝言語交流資料を中心とした朝鮮語史 資料の調査

「仮名書き朝鮮語」などを含んだ言語交流 資料は、未調査、未発掘のものも多い。それ らを調査し、収集していくことは、本辞典編 纂や朝鮮語史研究の基礎作業でもある。

## 3.研究の方法

(下記番号(1)、(2)、(3)は上記「研究の目的」 に対応)

(1) 基礎語彙の選定にあたっては、「言語調査 票 2000 年版」『現代朝鮮語基礎語彙集』 (梅田博之) 韓国出版の各種古語辞典、 現代語基本語彙辞典等を参照し、また文 献総索引の頻度も参考にした。用例採集 は、すべて原典(異本がある場合は出来 る限り参照)にあたって確認した。基礎語の関連語は既成の古語辞典の例を網羅した。基礎語彙の範囲は、当初の計画を変更し、分野別とし、26年度身体語、27年度衣服語とした。

- (2) 研究代表者は以前に『捷解新語』の朝鮮語総索引を作成したが、今回は、この総索引の全用例(実質語)に対応する日本語を確定し、索引に組み込んでいく作業を行った(朝鮮語の見出し語には代表的な対応日本語を選定する)。
- (3) 朝鮮関係の文献を有する機関である、東京都立中央図書館中山久四郎旧蔵資料、小浜市酒井家文庫、蓬左文庫、長浜高月観音の里歴史民俗資料館(雨森芳洲文庫)等で新たな日朝言語交流資料、朝鮮語史資料を調査した。ここで得られたデータによって語彙・言語史研究、交流史情報の充実を図ることとした。

## 4. 研究成果

(下記番号(1)、(2)、(3)は上記「研究の目的/ 方法」に対応)

(1)身体語(26年度)と衣服語(27年度)に 関する基礎語を選定・記述し、語彙集の形で 公刊した(以下、辻(2015)、辻(2016)による)。 記述の仕方は次のとおり:

> 日本語と英語および現代韓国語によ る見出し

> 対応する中期語語形とそのアクセント(語形やアクセントが複数の場合は全てを挙げる)

用例(初出例を必ず含む)およびそ の訳注

関連語:各語を前項・後項として含む関連語、および意味的な関連語を 選定し訳注を付した。関連語は、身体語の場合、延べ 204 語、衣服語 117 語を摘出した。

仮名書き朝鮮語例 (出典は主に『高 麗詞之事』)

以下に、身体語 31「指」の記述を 1 例として挙げる ( 辻(2015)65 ページ )。

31. 指(ゆび) finger < 現31.손가락(手の指): 발가락(足の指)> 1 가락[L1]電コ州 土子 ] 또 네 가라る 드니 저倍 코켓 토디리니 (その時、王子が又四本の指を挙げたが (それは) 四倍 (の供養を) しようとする意であったので) 《月釈25-125b》 カラ (格) 《本麗電32,034,035,036》

숫가락/순카락/숫マ락 [LLL]手の指 숫가락[LLL]¶耶念奪者을 숙호야 숝가라고 피아 八英四千 가면데 핤光케 현고 ( (阿育王は)

였가데[LLL]]마음파괴을 형약이 있거라는 피아 八興리구 가르여 있고게 으고 ( [메달드라]) 파舎章書に合じて (手) 指を広げ入万四千節を放光させ) 《釈溶24-24b》 손짜대[LLL]『연구막 수의에서 ( (世華の) 指の間から) 《月釈7-38b》 순고대[LLL]『연구막만큰 주막성 [括頭大の集玉の冠扇飾りに) 《輕朴 上29b》

足が第一で、足の指で地を押しても地が振え勤き) ≪新詳24-38a≫ 助가時[HLL] 『北州에 '나らい 飲み味急 そ五 (樹に至って足損を破って) ≪南別上50a≫ 東マ時[LLL] 『北州・ 次マ中 '小も 巻 付き 考も (私っの爪をもった角のない配を) ≪離井上14b≫ 【関連詞】 を歌か時[HHLL] 『平足の指: 智刈가時/智須가時[LHLL] 親指: ヲユシソンカラ (大指) ≪ 高麗332≫: ナッグワラ (?) (人まり指) ≪高麗033≫: 7を見가時(修点欠損](手の)中前(≪ 数第2-41b≫: ナラノンカラ (中指) (ツ 高麗034≫: ナチソンカラ (?) (無名指) ≪ 高麗35≫: ナラメンカラ (小指) ≪高麗035≫

임지방가락[LHELL]足の親指;이이방가락[LHHLL]足の親指(이이~이스[LH]報); 삿기방가락

また、各語の考察によって、明らかになった 言語史的事項は注として指摘した。以下に一 部をあげる(ハングルのローマ字表記は河野 方式に依るが一部変更した)。

#### \*母音交替についての指摘例:

衣服項目 3.「脱ぐ」(および 4.「裸」)に対応する pas-ta, pəs-ta は、母音調和による派生形である(現代語は後者のみ)。ともに中期語では、「脱ぐ」を意味するが、用例を検討すると、pəs-ta は「逃れる」の意味でも使われるという意味分化があったようである。同項目 10「靴」には、huə(丈の長い履物)が見られるが、これは「靴」の字音 hoaの母音(調和による)交替形である。この場合は借用語の母音を変化させることで、意味分化させたものである。(その他、身体 1.「頭」および 2.「髪」の mari, məri も母音交替による意味分化の例)

## \*アクセントに関する指摘例:

衣服項目 7「うわぎ」の cyek -s a かひと えの上着)のアクセントは[HL]から[LL] に変化したと見られる。身体 27「臍」 p\ is-pok も [HH HL]から [L L]の変化が 見られた。同項目 8 ズボン ( 袴 )の k o di i のアクセントは [LL]であるが、この語は、 漢語「袴衣」で、漢字音の声調は [RL]であ る。さらに ko-tiには、ke-oiという交替 形も見られる。また同項目 13の「絹(織 物 )」p i tan のアクセントは、多様である が整理すると、15世紀は [L H]、16世紀は [RH]が多いことが分かった。なお pit ar は漢語、「緋緞」(Api-ta)からきていると されるが、この字音アクセントは [LR]であ る。以上、借用語では、元の音韻やアクセ ントを変化させているものがあることが 分かる。

#### \*語形の新旧:

身体 42「毛」には、 fa pk と far が見られるが、 fa pk > far と推定した。

以上の基礎語彙の記述研究は、中期語の語 彙全体から見れば、ごく一部に過ぎず、記述 も不十分ではあるが、初めての試みとして (言語交流情報も加えたこと、関連語彙を網 羅したこと等を含め ) 意義があった。いっ ぽう、いくつか問題点も出てきた。とくに文 献的制約は最大の問題である。文献のジャン ルに偏りがある(つまり仏典や儒教関係が多 い)ことから日常的な基礎的使用語彙がどこ まで現れているのかが不明であり、また多く が翻訳(「諺解」)であるという制約から漢語 の影響があることが否めず、これが正確な意 味記述を困難にしている。なお、意味記述に 関しては、例えば、『三綱行実図』といった ある程度口語的かつ均質的な文献の語彙を 網羅的かつ微視的に検討、考察していく方法 もありうることを提案した(以上、辻(2016))

(2) 1676 年に司訳院で刊行された『捷解新 語』(成立は 17 世紀前半;全 10 巻)は、対 訳朝鮮語付の日本語テキストである。この資 料は、朝鮮語、日本語とも当時の口語をよく 反映した質の高い言語史資料であり、研究代 表者はすでに朝鮮語の総索引を作成してい る。今回、古語辞典編纂にあたっては、この 資料を近世語語彙の重要な原資と考えてい る。しかもこの資料では、ほぼセンテンスご とに両言語が対応しており、朝鮮語一語ずつ に対応日本語を引き当てることが可能であ る。これによって、辞書に言語交流史の情報 を取り込むことできると考えている。今回の 研究期間を通じ、本資料の各朝鮮語語彙に対 応する日本語を確定し、また、そこから代表 的な対訳語を確定する作業を行った。当初は、 文法要素(助詞、接辞等)も含めて、可能な 限り対応日本語を確定したが、膨大な時間が 掛かるため、途中からは、実質語(延べ語数 8 千語程度)に限定して作業を進めた。それ もあって3ヵ年で本資料全体の作業は完成で きなかったが、7,8割程度までは進んだと思 われる。以下に、作成した対訳付語彙集(総 索引)のごく一部を示す。(見出し語に添え られた日本語は代表的な対応語、代表語以外 の対応語は各掲出位置の後に示す。なお 「4-24b」等は巻 4 の 24 張裏等を示す。元の ハングルはここではローマ字に直した)

# me**syo**(うまうし(馬牛)) 4-24b,25a 【 < mersyo】

me'em(こころ(心))1-4b,5a,2-16b,3-17b, 9-9a,17b,21b ¶~tairo4-21a(こころ ままにも(心侭に も)),29a(しんぢうにま かす(心中に任す)) ¶~p<sup>h</sup>yən-heta(ここ ろやすし(心安))6-14b ¶~p<sup>h</sup>ən-hi(ここ ろやすウ(心安))1-15a, 5-20b,6-20a, 8-16b

mei'ya-he-ta (きよくなし(曲無)) ~'əy 2-12b

mec<sup>h</sup>-ta(すむ(済む))¶mes-3-21a,4-4b, 6a, 14b,15a(きわむ(極む)),22b,28a(すます(済ます)),28b(同前),8-15b(あいしむ(相染む)),26b(しまう(仕舞う)),32a(同前),10-35a(相済);mec<sup>h</sup>e-4-5b(しまう),26b(すます),30a(同前)

完成後は、何らかの形で公開を予定している。

(3)今回、上記のいくつかの機関で日朝言語交流史資料の調査を行い、従来十分に知られていなかった資料の発掘や「仮名書き朝鮮語」例を収集することができた。これにより朝鮮語古語に関する新たな知見を得ることができた。調査の結果、日朝言語交流史資料としては、東京都立中央図書館中山久四郎旧蔵文献では『草梁話集』『征韓録』『朝鮮琉球誌』『御代々朝鮮人来朝之覚』『日観考要』『桑韓筆語』など、酒井家文庫伴信友旧蔵文献等では『朝鮮事記』『朝鮮国風俗之事』『朝

鮮国語』、『朝鮮(日)記』、『朝鮮物語』など、 蓬左文庫では『朝鮮人来往記』などを確認した。これらの文献には「仮名書き朝鮮語」が 多数含まれているものもあった。地名の仮名 書きが多いが、それらは音韻史の資料となり うるものである。以下に、その一部の例を挙 げる。

例:機張クチャン、全羅テルラ、元平ヲンヒヨン、咸興府ハムホンホ等(『征韓録』);西生浦セヅカイ、京道ケントウ、黄海道バンカイトウ等(『朝鮮琉球誌』);堂洞アメ(/ミ)リヤゴリ、沙道原サストウバル,大峙ハンタイ(『草梁話集』);七歩チルホ、(三枝)槍ザク、偃月刀ツン(ママ)ラルトウ、コスチャン(楽器名)等(『御代々朝鮮人来朝之覚』);西生浦セスカイ、永川エグセン、チンリン、カロウ等(大河内秀元『朝鮮(日)記』)など

このほか、各機関所蔵の朝鮮語史資料も調査し、新たな発見もあった。例えば、中山久四郎旧蔵文献中に一部(凡例)に傍点が付いた写本『訓蒙字会』(石峰系)を発見した。また、雨森文庫所蔵『吏文大師』(写本)は、従来取り上げられたことはなかったが、今回の調査で、本書は漢字にはすべてハングルで音が付けられており、カラム文庫本などとは異なる面を持っていることが分かった。

(4)本課題研究の成果の一部を利用して、26年度には、研究発表「朝鮮王朝時代における日本語の研究と教育」を行った。日朝言語交流資料とりわけ司訳院倭学関係の資料を挙げながら、朝鮮時代における日本語研究とくに文法分析の深化を述べた。また 27年度には、韓国で開かれた国際学術大会において、招請講演「日本語と韓国語の類似性 類型的、歴史的観点から 」を行った。中期語の基礎語彙研究を踏まえて、両言語の表層的な比較研究を批判した。

(5) 上記(1) の中期語の基礎語彙について の記述は、国内外をとおして初めての試みで あり、また今後、必要とされる「日本語によ る朝鮮語古語辞典」のための確実な基礎を提 供するものとして一定の価値をもつと思わ れる。さらに、本研究で得られた基礎語に関 する正確な記述は、文献を読み解く場合だけ ではなく、日韓語の系統論やアクセント研究 のための確実な基礎データを提供すること にもなるであろう。また上記(2)の成果であ る対訳付き語彙集は古語辞典編纂における 主要な近世語データを形成することになる であろう。さらに、本研究で企図した日朝言 語交流資料の情報を語彙に付加する試みは、 日韓の長い文化交流の証として、また韓国語 学と日本語学とを結び付ける点で価値を有 するものと思われる。今回の研究の成果を踏 まえ、今後、基礎語彙の確実な記述研究を拡 大・深化させつつ、それを核として、全体的 な古語辞典編纂へと進んでいくことができ ればと思っている。

#### 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

#### [雑誌論文](計2件)

辻 星児 「中期朝鮮語における基礎語 量 身体語およびその関連語 」岡山 大学大学院社会文化科学研究科紀要、査 読無、第39号、2015、57 69

辻 星児 「中期朝鮮語における基礎語 彙 衣服を表す語およびその関連語 」岡山大学大学院社会文化科学研究科 『文化共生学』、査読無、第15号、2016、 95 105

#### [学会発表](計2件)

辻 星児「朝鮮王朝時代における日本語の研究と教育」; 岡山大学大学院社会文化科学研究科東アジア国際協力・教育研究センターシンポジウム「東アジアの中の日本学」、2014年2月27日、岡山大学(岡山県岡山市北区)

辻 星児「日本語と韓国語の類似性類型的、歴史的観点から 」(招請講演);韓国日本研究団体第4回国際学術大会(韓国日本学会第91回学術大会)「ポスト20世紀の韓日関係と日本研究 境界を越えて」(後援 日本国際交流基金、社団法人韓日協会他) 2015年8月21日、韓国翰林大学校、春川市(大韓民国)

[図書](計0件)

〔産業財産権〕 出願状況(計0件)

名称: 発明者: 権利類: 種号: 番号: 田内外の別:

取得状況(計0件)

名称: 名称: 者: 者: 種類: 音: 毎日日日日 田内外の別:

研究者番号: